

令和8年度 中川文化センター空調熱源交換工事

建築改修工事特記仕様書

工事概要

工 事 名 称 工 事 場 所 工事の種類・規模等	令和8年度 中川文化センター空調熱源交換工事					
	長野県 上伊那郡中川村片桐4757番地					
	棟名称	図面参照				
	工種					
	構造・階数					
	建築面積	m ²				
	延べ面積	m ²				
	改修延べ面積	m ²				
	延べ面積計					m ²
	改修延べ面積計					m ²
模様替内容		・耐震改修 ・改修 ○設備改修				
()の数値は、当該既設建物の面積とする。						
工作物等						

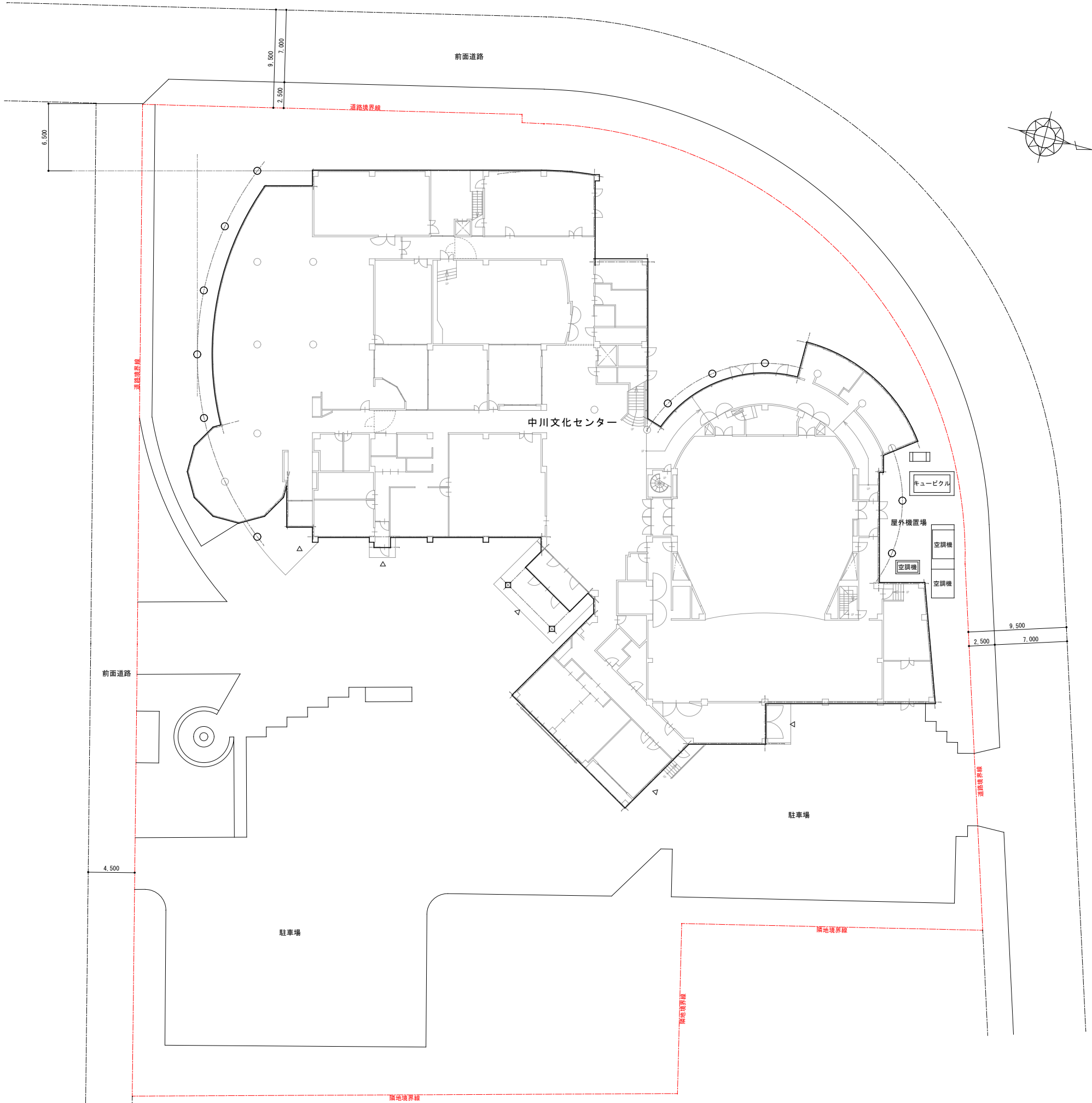
一般特記事項

総則	1. この工事の受注者は、現場説明書、特記仕様書、設計図面、公共建築工事標準仕様書・公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編・最新版）（以下、改修標準仕様書という）、工事写真撮影要領に基づき工事を施工する。 2. 特記仕様書の適用方法 (1) ・印で始まる事項及び表中の・印の事項は、○印の付した事項のみ適用する。 ○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ○印と※印の付いた場合は、共に適用する。 (2) ――――で抹消した章及び項目の当該特記事項は、すべて適用しない。 (3) 表中の数字、文字、又は記号を記入する事項は、記入してある事項のみ適用する。 (4) 特記された材料、製造所、製品名、施業者等の取扱いは、特記されたもの又は同等以上のものとする。ただし、同等以上のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。 (5) 左欄の〈 〉内の数値は、改修標準仕様書（建築工事編・令和４年版）の名該当番号を示す。 3 東海地震に係る地震防災対策強化地域内における工事にあつては「大規模地震対策特別措置法」による注意情報が発せられた場合、工事受注者は人身の保護及び安全な避難に必要な補強、落下防止等の保全措置を講ずるとともに、工事中断の措置をとること。又この事実が発生した場合は、契約書第２６条（臨機の措置）によって処理されたものとする。
----	---

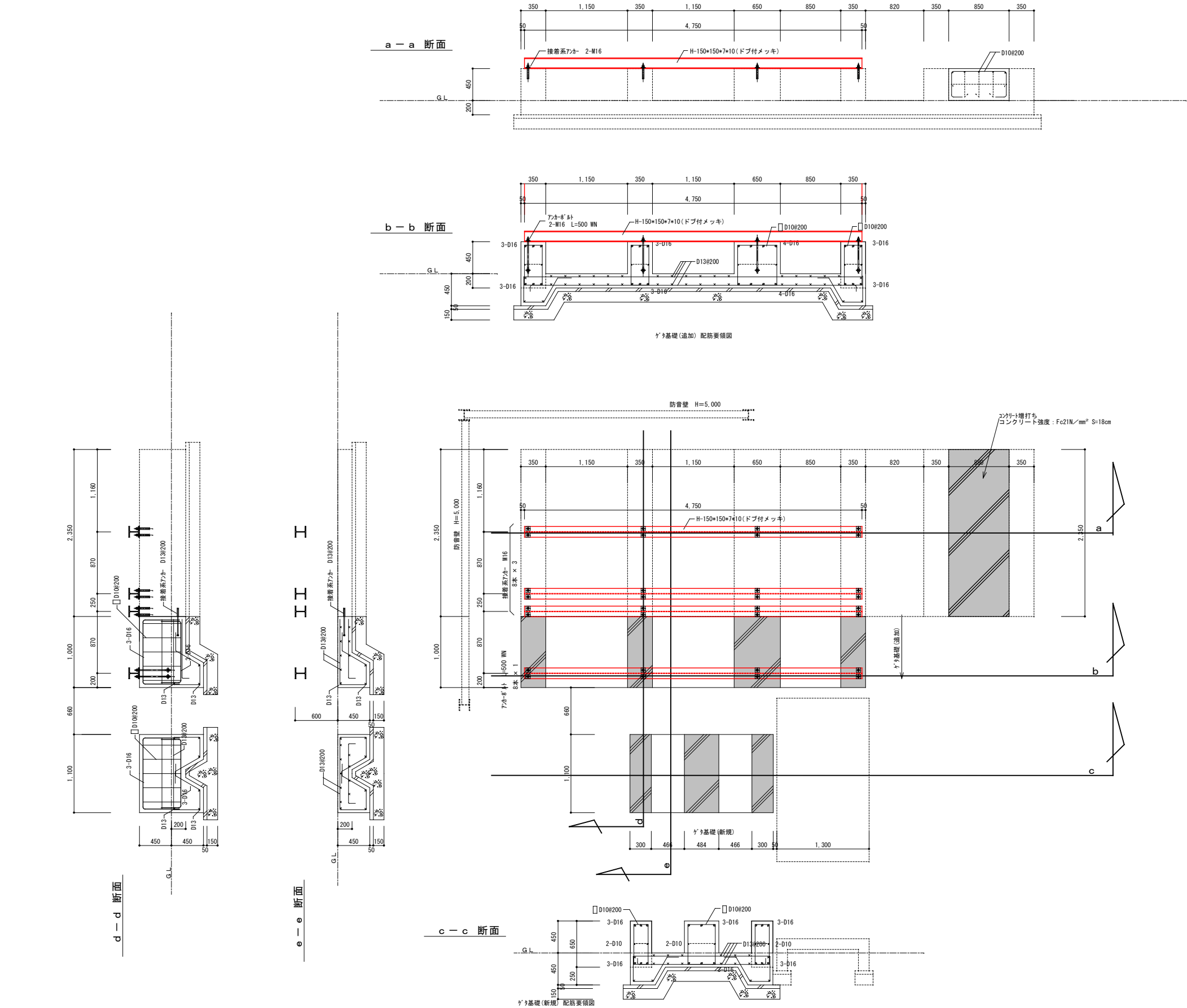
１章 一般共通事項

適用基準等	○建築工事標準詳細図（最新版） 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ・建築鉄骨設計基準及び同解説（P１からP２９を適用） （平成１０年版） 建設大臣官房官庁営繕部監修
<1.1.4> 工事実績情報の登録	※工事請負代金が５００万円以上の場合は適用する。 ・適用しない。
<1.3.12> 発生材の処理等	建設副産物に関しては、標準仕様書１．３．12によるほか、建築工事における建設副産物管理マニュアルに従い適切に処理する。 ・引渡しを要するもの（ ） ・特別管理産業廃棄物 ※無 ・有（ ） 処理方法（ ） ・現場において再利用をはかるもの（ ） ・再生資材の利用を図るもの（ ）
<1.2.1> 実施工程表	総合試運転調整を行う上で、関連工事を含めた各工事が工期のおおむね１０日前までに支障のない状態にまで完了していること。
品質計画	建築基準法に基づき定められた区分等（告示第１４５４号及び第１４５５号による。） 地域の風速 V _s = m／s 地表面粗度区分 ・Ⅰ ・Ⅱ ・Ⅲ ・Ⅳ 積雪区分 別表（ ）
建設副産物情報 交換システム	本工事は、建設副産物情報交換システム（以下「システム」という。）の登録対象工事であり、受注者は、施工計画作成時、工事完了時及び登録情報の変更が生じた場合は速やかに当該システムにデータの入力を行うものとする。 尚、これにより難しい場合には、監督職員と協議しなければならない。
特定建設資材の 再資源化等	本工事は、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律〔（平成１２年法律第１０４号）以下「建設リサイクル法」という。〕に基づき、特定建設資材の分別解体等及び再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。 尚、本工事における特定建設資材の分別解体等・再資源化等については、別表１又は２、及び３の積算条件を設定しているが、工事請負契約書「７解体工事に要する費用等」に定める事項は契約締結時に発注者と受注者の間で確認されたものであるため、発注者が積算上条件明示した別表の事項と別の方法であった場合でも変更の対象としない。但し、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものではない事項については、この限りでない。又、受注

打合図		株式会社 城取建築設計事務所	一級建築士事務所登録 長野県知事登録 (伊那)M第7Y051号	図面を作成した建築士 一級建築士 大匠登録第34915号	図面を作成した建築士 酒井 優	凡例 備考			工事名称 令和8年度 中川文化センター空調熱源交換工事	図面名称 改修特記仕様書	SCALE [A1]・No Scale	年月日 R8.7	No. A-01
発注図											[A3]・No Scale		
最終図													



打合図	株式会社 城取建築設計事務所 千396-0026 長野県伊那市西町5863番地1 / TEL 0265 (72) 7271	一級建築士事務所登録 長野県知事登録 (伊那)M第7Y051号	図面を作成した建築士 一級建築士 大匠登録第344915号 酒井 優	図面を作成した建築士	凡例 備考	工事名称 令和8年度 中川文化センター空調熱源交換工事	図面名称 配置図	SCALE [A1]・ 1 : 200 [A3]・ 1 : 400	年 月 日 R 8 . 7	No. ※
発注図										
最終図										



令和 8 年度 中川文化センター空調熱源交換工事

I. 工 事 概 要

- [illegible]

- | 工 事 種 目 (●を印付けたものを適用する) | | 工 事 内 容 | | | | |
|-------------------------|-------|-------------|-------|-------|-------|-------|
| 工 事 種 目 | 建 物 別 | 文 化 セ ン タ ー | | | | 屋 外 |
| ○ 空 気 調 和 設 備 | | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 |
| ○ 冷 暖 房 設 備 | | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 |
| ○ 暖 房 設 備 | | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 |
| ○ 換 気 設 備 | | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 |
| ○ 排 煙 設 備 | | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 |
| ● 自 動 制 御 設 備 | | ● 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 |
| ○ 衛 生 器 具 設 備 | | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 |
| ○ 給 水 設 備 | | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 |
| ○ 排 水 設 備 | | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 |
| ○ 給 湯 設 備 | | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 |
| ○ 消 火 設 備 | | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 |
| ○ ガ ス 設 備 | | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 |
| ○ 給 油 設 備 | | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 |
| ○ 厨 房 機 器 設 備 | | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 |
| ○ 美 観 実 用 器 具 設 備 | | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 |
| ○ 浄 化 槽 設 備 | | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 |
| ● 搬 送 工 事 | | ● 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 | ○ 一 式 |

- | 設 置 機 概 要 (○印を付けたものを適用する) | | 設 置 機 概 要 |
|---------------------------|---|-----------------------|
| 空 調 方 式 | ・ 空冷ヒートポンプ空調機 | ○空冷式ヒートポンププラナーク空調機 |
| 冷 暖 房 方 式 | ・ | ・ |
| 暖 房 方 式 | ・ 温風暖房 | ・ 温水暖房 |
| 暖 気 方 式 | ・ 局所暖気 | ・ F F 暖房 |
| 給 水 方 式 | ・ 水道直結式 | ・ 加圧式 |
| | | ・ 高圧タンク式 (・ 上水 ・ 雑用水) |
| 排 水 方 式 | ・ 建物内汚水、雑排水 (・ 分流 ・ 合流) | |
| | ・ 建物外汚水、雑排水 (・ 分流 ・ 合流) | |
| | 浄化槽 (・ 合併 ・ 単独) | |
| | 放流先 | ・ 公共下水 |
| 消 火 設 備 の 種 別 | ・ 屋内消火栓設備 | ・ 連結消火栓設備 |
| | ・ 屋外消火栓設備 | ・ 連結散水設備 |
| ガ ス の 種 別 | ・ 都市ガス (発熱量 KJ/Nm^3) | |
| | ・ 液化石油ガス (発熱量 100,000 KJ/Nm^3) | |

5. 指 定 部 分 ☒ 無 ・ 有 (指定部分しゅん工期限 平成 年 月 日)
対 象 部 分 :
Ⅱ. 図 面 目 録

II. 圖 面 目 録

No.	園 面 名 称	No.	園 面 名 称
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
-			
-			

Ⅲ. 工事仕様

- ## ハ 共通仕様
- (1)図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁官庁庁舎構体の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和7年版）」（以下、「標準仕様書」という。）、公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和7年版）」（以下、「改修標準仕様書」という。）及び「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）（令和7年版）」（以下、「標準図」という。）による。
- (2)電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備工事及び建築工事は、それぞれの工事仕様を適用し、下記の工事仕様は適用しない。
- 参考図書
- 長野県建築工事の手引き（以下、「手引き」という。）（令和3年版）長野県建設部施設課監修
- ## ニ 特記仕様
- (1)章は●印の付いたもの、項目は番号に○印の付いたものを適用する。
- (2)特記事項のうち選択する事項は○印の付いたものを適用し、・印の付いたものは適用しない。

項	目	特 記 事 項
①	機 材 等	(1) 本工事に使用する材料・機材等は、設計図書に定める品質及び性能と同等以上のものを使用する。ただし、製造業者等が記載されている場合に同等以上のものとする場合は、あらかじめ監督職員の承認を受ける。 (2) 別表一に示す材料・機材等の製造業者等は次の1)から6)すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出し監督職員の承認を受ける。 1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 3) 安定的な供給が可能であること。 4) 法令等で定めがある場合は、その許可、認可、認定又は免許を取得していること。 5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること。なお、システムとして機能するものにあては、システムの構築能力があり、現場での施工体制が整えられていること。

- | | | |
|---|----------------|--|
| ② | 使用材料発注先調書 | 発注者、製造者、発注先、品質性能証明資料提出の省略について記載した調書を作成し、監督職員の承認を受ける。 |
| ③ | 施工条件明示項目 | 公共建築物工事構築基準の解説(設備工事編)の「執務並改修」 |
| ④ | 化学物質を発生する建築材料等 | <p>本工事の建築物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の1)から5)を満たすものとする。</p> <p>1) 含鉛、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリウ樹脂板、仕上り建材及び、ホルムアルデヒドを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。</p> <p>2) 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びシアンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。</p> <p>3) 接着剤はフタル酸ジエーテル及びフタル酸-2-エチルヘキシルを含有しない難燃性の可塑性を使用し、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。</p> <p>4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。</p> <p>5) 上記1)、3)、4)の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他什器等は、ホルムアルデヒドを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。</p> <p>なお、ホルムアルデヒドを発生しないものとは、発熱量が規制対象外のものも、ホルムアルデヒドの発熱量が極めて少ないものも、発散が第3項のものではない。原則として規制対象のものを使用するものとするが、該当する材料等が無い場合は第3項のものを使用するものとする。</p> |

ホルムアルデヒドの発散量	該当する建築材料
規制対象外	①JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 a 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b 接着剤等不使用 c 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用
第三種	①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の5第3項による国土交通大臣認定品

- ① ペーストシール剤
飲料水物質に使用されているペーストシール剤は、室内汚染に係る揮発性化合物に指定されている。下記の物質を材料及び製造工程に使用してはいないこと。
ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン、パラジクロロベンゼン、テトラフルカン、クロルピリオス、フェノカルバ、ダイアジノン
フタル酸ジ-n-プロパル、フタル酸ジ-エチルオキシヘキシル

② 電気保安技術者を設置する。
・ 配管（1. 2） ・ 冷凍空調機器（1. 2） ・ 熱絶縁（1. 2） ・ 建築板金（1. 2）
③ 設けない。④ 使用する。
この工事に必要な工事用電力、用水、諸手続きなどの費用は該負者の負担とする。
・ 別契約の関係該負者が定置したものは無償で使用できる。 ⑤ 本工事で負担する。
⑥ 改修工事標準仕様書第1編2.1.2.1によるほか下記による。
・ 内部仮設足場等（ 種 ・ 種 ） ・ 外部仮設足場等（ 種 ・ 種 ）
資材の保管は必ず屋根をかけた地上30cm以上の架台に乗せる。
・ 監督官が指示する構内の場所に敷ならし ・ 構内指定場所にたいた種 ・ 構外搬出適切処理
・ 根切中の良質土（ただし管の周囲は山砂又は川砂） ・ 山砂の類
根切中の山の留め（ ） ・ 無
工事に先立ち手引き第2編による廃棄物等処理計画書を監督官員に提出し、しゅん工時には廃棄物等処理報告書

- 作成し提出する。
- (1) 引渡しを要するもの ○無 ・有 ()
- (2) 引渡しを要するもの以外は機外提出し取扱法により適切に処理すること。
- (3) 特別管理産業廃棄物 ・無 ○有 (アスベスト 配管・煙導ランパッキン)
- (4) 再利用又は再生資源化を図るもの (2)がリットル、737がkg、木くず、金属くず、塩ど管、
標準仕様書第1編 1. 7. 4によるほか、パルプ類等是有必要に応じて合成樹脂製名札をステン
ス板又は樹脂で1つ。
- 17 取扱説明板
機器等の取扱い方法及び大きな重要な点項目等を書いた取扱説明板 (アクリル樹脂製、文字形
式に程度) を貼ける。文字サイズは、約 mm とする。
- 18 総合調整
○風量調整 ・水量調整 ○室内外空気温度測定 ○騒音測定
・飲料水の水質の測定 (・水質基準検査11項目 (一般細菌、大腸菌、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素、
亜硝酸態窒素、塩化物付付、有機物等 (TOC)、pH、臭気、色度、濁度) ・トルエン)
- 飲料水の水質の測定は厚生労働大臣登録水質検査機関とする。
- 19 容量等の表示
(1) 機器駆動能力、容量等は、表示された数値以上とする。
- (2) 電動機出力、燃料消費量、圧力損失は、原則として表示された数値以下とする。
- 機軸、機軸、機軸等が指定された数値に達しない限り、指定された数値に示す。

- 耐震措置の計算及び施工方法は、次に掲げる事項以外、すべて「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」(国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修)による。
- (1) 設計用水平地震力は、機器の重量(自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効重量)に、次に示す地域係数及び設計用標準水平震度を乗じたものとする。地域係数は1.0とする。
- | 設 置 場 所 | 耐 震 安 全 性 の 分 類 | | | |
|------------|-------------------|--------|--------------|--------|
| | ・特定の施設(Ⅰ・甲種・Ⅱ・乙種) | | ・一般の施設(Ⅱ・乙種) | |
| | 重要機器 | 一般機器 | 重要機器 | 一般機器 |
| 上階廊、屋上及び塔屋 | 2. 0 | 1. 5 | 1. 5 | 1. 0 |
| | (2. 0) | (2. 0) | (2. 0) | (1. 5) |
| | (2. 0) | (1. 5) | (1. 5) | (1. 0) |
| 中 間 階 | 1. 5 | 1. 0 | 1. 0 | 0. 6 |
| | (1. 5) | (1. 5) | (1. 5) | (1. 0) |
| | (1. 5) | (1. 0) | (1. 0) | (0. 6) |
| 地下階、一階 | 1. 0 | 0. 6 | 0. 6 | 0. 4 |
| | (1. 0) | (1. 0) | (1. 0) | (0. 6) |
| | (1. 5) | (1. 0) | (1. 0) | (0. 6) |

- (注) ① () 内の数値は防振支脚の設置の増否に適用する。
 2. () 内の数値は水槽類に適用する。
 3. 上層階の定義は次による。
 2～6階建以下の場合是最上階、7～9階建の場合は上層2階
 重要機器とは下記に示すものをいう。
 ・給水装置・排水装置・換気機器・空調機①防災機器・監視制御設備・危険物貯蔵装置
 ・火を使用する設備・避難経路上に設置する機器・
 (2)設計用水平地震力、設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。
 改訂工事標準仕様書第2編第5章による。
 確認試験は、性能確認試験(本)・施工後確認試験(本)を確認強度 kNにて行う。
 ③施工上の適用(第1種、第2種)は、施工アンカーは施工工士による。③出江(注)を参照。
 ④吊金物は、鋼金物は亜鉛メッキ又はステンレス鋼製とする
 水栓、給湯、消火、湯冷水、冷却水管は、図示による水抜きが確実にできるよう水抜き位置に向かって下り勾配とする。
 ⑤管の保護
 コンクリート間の鋼管、鉛管及びび管については、プラスチックテープを1/2巻ね1回巻くとする。また、コンクリート間下配管は、鋼管等は、図示等により下り伏下し措置をする。
 土中埋設管(排水管)は、管の上下をサンドクッション厚100mmで保護する。
 給水管、消火管の埋設深さは mmとする。又、ガス管の埋設深さは mmとする。

- | 26 | 管の埋設表示 | 図示された屋外埋設管の分岐及び曲がりの箇所には、コンクリート製構柱を埋め込む。舗装部分は埋設構柱ビントとする。また、施工上正しい分岐、曲がりの箇所についても同様とする。
排水管を除く管には、埋設表示用テープを設置する。 | | | | | | | | | | | | |
|---------------------|---------------------|--|-----------|---------|-----------------|-------|---------------------|-------------|--------------------|---------------------|-------------|---------------------|---------------------|-------------|
| 27 | 接続部の非破壊検査 | 検査対象 ・・・ 配管 ・・・ 導通 ・・・
取捨率 ・・・ 標準仕書による ・・・
検査の種類 ・・・ R・T ・・・ P・T又はM・T | | | | | | | | | | | | |
| 28 | 配管の保温 | 下記の金属電線管は塗装を行う。
・ 屋外露出 ・・・ () の屋内露出 ・・・
下記の保温を行わない変動メッキを施したダクト及び配管は塗装を行わない。 | | | | | | | | | | | | |
| 29 | 機器の基礎及び振動絶縁効率 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>・ 意 図 ・・・</th><th>基 礎 ・・・</th><th>振 動 絶 縁 効 率 ・・・</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>遠心送風機</td><td>・ 標準基礎 ・・・ 防振基礎 ・・・</td><td>・ 80%以上 ・・・</td></tr> <tr> <td>空調用ポンプ及びボイラー給水用ポンプ</td><td>・ 標準基礎 ・・・ 防振基礎 ・・・</td><td>・ 80%以上 ・・・</td></tr> <tr> <td>排水用ポンプ及び小形給水ポンプユニット</td><td>・ 標準基礎 ・・・ 防振基礎 ・・・</td><td>・ 80%以上 ・・・</td></tr> </tbody> </table> <p>・ 別図による。</p> | ・ 意 図 ・・・ | 基 礎 ・・・ | 振 動 絶 縁 効 率 ・・・ | 遠心送風機 | ・ 標準基礎 ・・・ 防振基礎 ・・・ | ・ 80%以上 ・・・ | 空調用ポンプ及びボイラー給水用ポンプ | ・ 標準基礎 ・・・ 防振基礎 ・・・ | ・ 80%以上 ・・・ | 排水用ポンプ及び小形給水ポンプユニット | ・ 標準基礎 ・・・ 防振基礎 ・・・ | ・ 80%以上 ・・・ |
| ・ 意 図 ・・・ | 基 礎 ・・・ | 振 動 絶 縁 効 率 ・・・ | | | | | | | | | | | | |
| 遠心送風機 | ・ 標準基礎 ・・・ 防振基礎 ・・・ | ・ 80%以上 ・・・ | | | | | | | | | | | | |
| 空調用ポンプ及びボイラー給水用ポンプ | ・ 標準基礎 ・・・ 防振基礎 ・・・ | ・ 80%以上 ・・・ | | | | | | | | | | | | |
| 排水用ポンプ及び小形給水ポンプユニット | ・ 標準基礎 ・・・ 防振基礎 ・・・ | ・ 80%以上 ・・・ | | | | | | | | | | | | |
| 30 | 電線、ケーブルの敷設 | 電線及びケーブルの規格は標準仕書第4編1.5.1.表4.1.1.1による。 | | | | | | | | | | | | |
| 31 | はつり | 既存のコンクリート床及び壁の配管貫通部の明けは原則としてダイヤモンドカッターによる。 | | | | | | | | | | | | |
| 32 | 保温及び消音内貼り | 標準仕書第2編によるほか下記による。
給水管、給湯管、冷温水管等の管、バルブ（グランドボウを含む）、フレンジ、可とう継手及び | | | | | | | | | | | | |

- 図中のフランジは、建物内外共保温する。なお、保温端部はシーリング処理を行う。
- 本給湯の保温で標準仕様書で厚30mm未満の配管はすべて厚30mm以上とする。ただし、排水管は除く。
- | | | |
|-----------------------------------|------------|------------|
| ・ 換気ダクトの保温要（保温厚25mm） | ・ 範囲は図示による | ・ 外壁より1mまで |
| ・ 外気取入れダクトの保温要（保温厚25mm） | ・ 範囲は図示による | |
| ・ 排気ダクトの保温要（保温厚25mm） | ・ 範囲は図示による | |
| ・ 通りダクトの保温要（保温厚25mm） | ・ 範囲は図示による | |
| ・ 膨張クランクよりボイラーへの補給水管の保温は膨張管の項による。 | | |
| ・ 建物内の空気抜き管の保温は膨張管の項による。 | | |
- 空気調和機、ファンコイルユニット、冷水及び冷水水のドレーン管の保温は排水管の項による。
- ・ 全熱交換器用ダクトの保温要（保温厚25mm）
- ・ 範囲は図示による
- 保温種別は下記による
- | | | |
|---------------|-------------|-------------|
| ダクト | ・ イ（・1号・2号） | □ |
| 冷水水、冷水、温水、蒸気管 | ・ イ | □ |
| 機器 | ・ イ | □ |
| 給水管 | ・ ハ | ○（凍結防止帯巻部分） |
| 排水管 | ・ □ | ○ |
| 排湯管 | ・ イ | □ |
- ・ 排水管でビット内、共同溝内及び最下層の床下の下記部分は保温する。
- なお仕様はd（ハ）とする。
- ・ 排水トラップ ・ 給管 ・ 銅管類 ・ ビニール管 ・ ドレーン管 ・
- ・ 消火管で下記部分は保温する。なお仕様は給水管の項による。
- ・ 屋内消火管 ・ 水抜きできない管 ・ スプリンクラー配管 ・
- 圧カランク、膨張水槽、各種呼水槽銅板排水槽は保温する。なお仕様は各機器の項に準ずる。
- ・ 大便器は保温する。
- ・ 共同溝の保温種別（・ビット内）に準ずる
- ・ ガス等の保温種別は下表による

区 分		保 温 外 装	
	倉庫・書庫	・アルミガラスクロス	・
	機械室	・アルミガラスクロス	・
	居室・廊下など	・カラー亜鉛鉄板	・
	屋外露出、多湿箇所 ()	・ステンレス鋼板	・

- | ②配管の保温外装は下表による。(配管には、冷媒管は除く。) | | |
|---|------------|----------|
| 区 分 | 保 温 | 外 装 |
| 倉庫・書庫 | ・アルミガラスクロス | ・ |
| 機械室 | ・アルミガラスクロス | ・ |
| 居室・廊下など | ・ | ・ |
| 屋外露出、多湿箇所 | ・ステンレス鋼板 | ・ |
| ・冷媒管の保温の外装は下表による。なお保温化粧ケースの材質は図示による。 | | |
| 区 分 | 保 温 | 外 装 |
| 屋 内 露 出 | ③保温化粧ケース | |
| 屋 外 露 出 | ③ステンレス鋼板 | ・保温化粧ケース |
| ④防 凍 保 温 | | |
| ・屋外露出部（給水管、冷温水管、膨脹管、冷水管、温水管、ドレーン管、消火管、排水管、弁類）は防凍保温を行い、厚さは管径25mm以下のものは50mm、管径32mm以上のものは40mmとする。 | | |
| ・屋外露出部（給水管、 冷温水管 、膨脹管、 冷水管 、 温水管 、ドレーン管、消火管、排水管、弁類）は電気ヒーター等の防凍対策を行う。なお、保温厚は32に準じる。 | | |
| ・各種機器について図示電気ヒーター等の防凍対策を行う。（ ） | | |
| ⑤ 試 験 | | |
| ①各配管の試験は、新設配管に適用する。 | | |
| ②新設配管は、既設配管の接続前に試験を行う。 | | |
| 配管、タクト、器具類受け付けにのみならずスリーブ、挿入には本工事とし、他は工事区分表による。 | | |
| 保険等の各種措置については、別添「特記仕様書（共通事項）」による。 | | |
| （長野県公式ホームページ（電子入札システム）に掲載される、当該入札公告の添付図書） | | |

- | | | | | | | | | |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| ① 設計 温 度 | 外 気 | | 屋 内 | | | | | |
| | | | 大 ホ ー ル | | | | | |
| | 温度 (DB) | 湿度 (RH) | 温度 (DB) | 湿度 (RH) | 温度 (DB) | 湿度 (RH) | 温度 (DB) | 湿度 (RH) |
| 夏 季 | 32.9 ℃ | 53.0 % | 26.0 ℃ | 50 % | ℃ | % | ℃ | % |
| 冬 季 | -6.0 ℃ | 53.0 % | 22.0 ℃ | 50 % | ℃ | % | ℃ | % |

下 表 による ほか、耳 及び 音が ない よう 機構 選定 および ダクト 消音 対策 を 行う。

室	名	A 特 性 (dB)	N	C 値

3 煤 煙 濃 度 計

 - ・ 設 け る (既 設)

4 ば い じ ん 量 測 定 口

 - ・ 設 け る (測 定 口 は 80φ と す る) (既 設)

5 煙 道

6 ダ ク ト

伸縮継手、捨断口及びばい煙量測定口の位置は図示による。

 - ・ 低圧ダクト ・ 高圧1ダクト ・ 高圧2ダクト
 - ・ アングルフランジ工法 ・ スパイラルダクト
 - ・ コーポレート工法 ・ 共振フランジ工法 ・ スライドオンフランジ工法)

7 風 量 測 定 口

8 チ ャ ン パ ー

（1）内貼りを施すチャンパーの表示寸法は外法を示す。

（2）空気調和機、通風機房壁に取り付けるサブライチチャンパー、レタンチャンパー及び風道系で消音内貼りしたチャンパーには接続口を設け、接続口の大きさは図示による。

（3）外壁に面するガラリに直接取り付けるチャンパー及びホッパースは、雨水の滞留のないように施工する。

9 防 煙 ダ ン パ ー

復旧方式（・透隔・）

定格入力は、D C 24V、0.7A 以下とする。

10	ビストンダンパー	復帰方式（・遠隔・ JIS又はJV・5K・10K（図示部分））
11	圧 類	取付部は図示による。
12	温 度 計	取付部は図示による。
13	圧 力 計	取付部は図示による。
14	瞬 間 流 量 計	コック付とし、形式及び取付部は図示による。
15	油 面 制 御 装 置	制御弁は（・給油ポンプ制御・満油警報・遠隔警報・電磁弁制御・返油ポンプ制御・減油警報・ ）の端子を設ける。なお、フロートスイッチ部と制御盤間の配管配線は製造者の標準仕様とする。
1	ダ ク ト	・低圧ダクト・高圧1ダクト・高圧2ダクト ・アングルフランジ工法・スパイラルダクト ・コーポルト工法（・共振フランジ工法・スライドオンフランジ工法） ・厨房・浴室系統の排気用ダクトの水抜き（・要・不要） ・厨房系統の長方形排気用ダクトの板厚は、標準仕様値より1ランク厚いものを使用する。 取付位置は図示による。
2	風 量 測 定 口	空気取和設備の該当項目による。
3	ダ ン パ ー	浴室（シャワー室・脱衣室を含む）系統・
4	排気ダクトのシール	空気取和設備の該当項目による。
5	ヤ ン パ ー	自然気流換気ダクトが自家発室外を通過する場合の耐火措置は図示による。
6	耐 火 措 置	

1 ダクト 2 排煙口の形式 3 排煙口手動開放装置 (開放及び復帰方式) 4 排煙風量測定	・重鉛鉄板 図示による ・ワイヤ式 ・電気式 (遠隔操作 ・不要 ・要)
① 中央監視制御装置 2 中央監視制御装置 の構成・機能 ③ 電気計装工事の配線	「建築設備定期検査業務基準平成20年度版」(財)日本建築設備円滑センター)の排煙風量の検査方法に準ずる。 ○有り(既存) ・無し 図示による 使用する電線類はEM電線とし、規格は標準仕様書第4編表1.5.1表4.1.1.1の使用電線類の規格による。(機器、笠類は除く) 屋外・屋内露出の電線は図面に特記のない限り金属管配線とする。 天井内隠蔽の配線は図面に特記のない限りケーブル配線とする。

1	大 便 器 洗 淨 弁	・バキュームブレーカー ・不凍結装置付 ・低圧フラッシュバルブ ()
2	大 便 器 ロータンク	・水抜き装置付
3	温 水 洗 浄 弁 使 産	加熱方式 (・貯湯式 ・瞬間式) 温風乾燥機能 (・有 ・無) 振音装置 (・有 ・無) リモコン (・有 ・無)
4	小 便 器 洗 浄 弁	・不凍結装置付、感知小便器一体型フラッシュ方式・個別感知フラッシュ方式 (・埋込 ・露出)
5	水 栓	・節水固定コマ (・寒冷地対応形 ・)
6	洗 面 器	・止水栓付
7	標 記 板	・取付面所 (・大便器 ・小便器 ・) 材質 (・陶器製 ・)
8	大 便 器 耐 火 パー	・設ける (ビット内は除く) ・設けない

1 量 水 器	・親メーター（・貸与品、 ） ・子メーター（・買取り、 ）
2 量 水 器 類	・水道事業指定品（・貸与品、買取り） ・標準図MC形
3 井 堀	JIS又はJ V ・水道直轄部分（・10 K、 ） ・その他の部分（・5 K、 ）
4 引込 納 付 金 等	・要（・本工事、別送工事） ・不要
5 給 水 勾 配	・不凍性の二次側は水抜きが確実にできること。
6 建物導入部配管	・標準図 施 4、5（・a） ・（・c）による。

1 洗面器等の排水管	洗面器及び手洗器に直結する排水管は、器具トラップより1サイズアップとする。
2 排水勾配	屋内 ・ 65 A 以下は 1/50、75 A 以上は 1/100 以上 屋外 ・ 1/100 以上
3 満水試験経手	図示の箇所に取り付ける。
4 インポート樹、ため樹	樹のコンクリート部は工場製品としてもよい。

1 弁	類	J I S 又は J V (・ 5 K ・ 1 0 K (図示部分))
-----	---	---

1 屋内消火栓箱	・ H B - 1 A ・ H B - 1 B ・
2 建物導入部配管	・ 標準図 施工 4、5 (・ (a) ・ (b) ・ (c)) による。

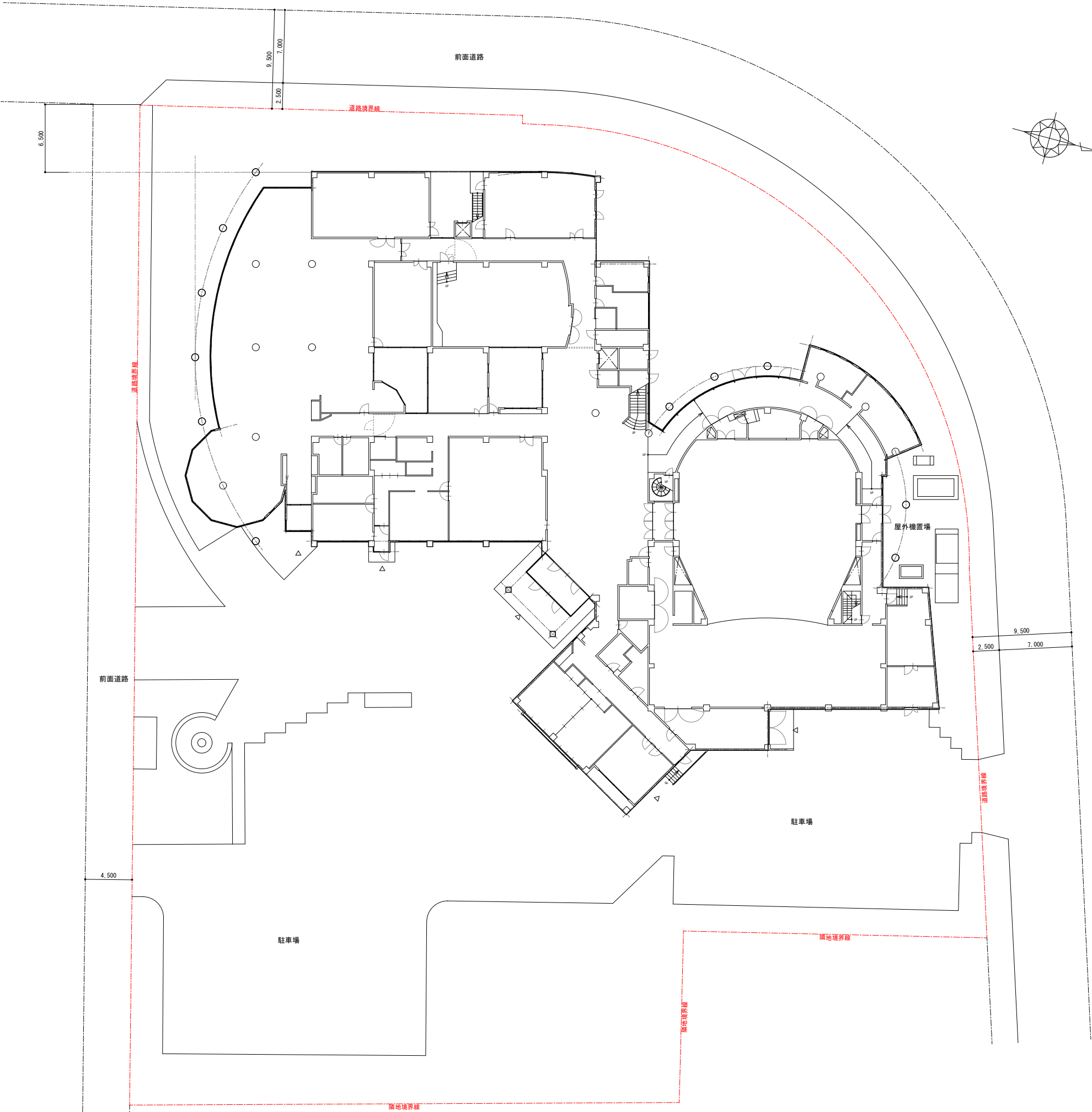
1 シ ス テ ム	・ドライシステム
2 機 器 の 寸 法	概略寸法とする

1 充てん容器	・別途（・50kg・バルク貯槽 980 kg）
2 集合装置	・標準図 施工72による 2本組。
3 転倒防止止	・標準図 施工73（・（a）・（b））による
4 警 告 タ ー	・親メーター（・買取り・） ・子メーター（・買取り・）
5 ガス漏れ警報器	・本工事（図示による） ・別途工事（供給者工事）
6 引込負担金	・要（・別途工事・本工事） ・不要
7 電 気 防 火	・要 ・不要
8 建物導入手配管	・標準図 施工4、5（・（a）・（b）・（c））による。

- | | |
|------------------|---|
| ① しゅん工時提出物 | 標準仕様書によるほか別表-2による。 |
| ② 定期報告 | 工事しゅん工後3ヶ月、12ヶ月に点検をして、その結果を書面で施設課長あて報告する。
(管理者からの聞き取り調査を含め、調査には必ず管理者の立会いを要する。) |
| ③ 電子納品 | 別添「建築工事における電子納品特記仕様書(試用版)」による。
(長野県公式ホームページ(電子入札システム)に掲載される、当該入札公告の添付図書) |
| ④ 特別管理産業廃棄物管理責任者 | 特別管理産業廃棄物の処理に当たっては、廃棄物処理法に基づき特別管理産業廃棄物管理責任者を選任する。 |
- (別表-1) 品質及び性能を有することの証明となる資料を提出する機材等
- | | |
|---|--|
| ○(社) 公共建築協会による「建築物・設備機材等品質性能評価事業」における評価対象となる機械設備機材等 | |
| ・ | |
| ・ | |
| ・ | |
| ・ | |
| ○その他監督職員の指示によるもの | |
- (別表-2) しゅん工時提出物(○印を付けたものを提出する。作成方法は手引きによる。)

提出書類等目録	⑦ 官公署届出書類等
② 完成図（原図・製本・CADデータ）	⑧ 工具・予備品等
③ 設計図（原図・CADデータ）	⑨ 引渡書
④ 工事施工関係書類	10 試運転用油等（ ）の納品書写
⑤ 工事完成資料	⑩ その他監理職員の指示によるもの又は特記によるもの
⑥ 保守管理資料	

打合図		株式会社 城取建築設計事務所	〒396-0026 長野県伊那市西町5863番地1 / TEL 0265 (72) 7271	一級建築士事務所登録 長野県知事登録 (伊那)M第70501号	図面を作成した建築士	図面を作成した建築士	凡例 備考	工事名称 令和8年度 中川文化センター空調熱源交換工事	図面名称 機械設備 特記仕様書	SCALE [A1] —	年月日 R 8 . 7	No. M-01
第注図				一級建築士 大匠登録第344915号						[A3] —		
最終図					酒井 優							



○工事概要	
・	本工事は、老朽化した熱源機器の改修に伴い、水蓄熱ユニットによる空調方式を空冷式ヒートポンプチャラーに改修する工事である。
・	上記改修に伴う配管及び自動制御機器・その他付属設備の更新を行う。
・	既設ヒートポンプ式蓄熱槽ユニット、ポンプ類は全て撤去とする。
・	1階機械室内及び屋外露出の不要な配管は全て撤去とする。
・	上記設備改修に伴う新設及び更新する機器の基礎設置。
・	本ホール系統のユニット形空調和機及びダクトは既設再使用とする。
・	ヒートポンプ式チャラーによる幹線動力設備工事を行う。(電気工事)
○制約条件	
・	工事は施設を使用しながらの工事のため、工事範囲、工程、冷暖房の停止等、施設管理者を含めて十分な協議を要する。
・	通常の使用に支障が無いように、作業時は十分な養生を行い、水難、埃の防止を図ること。
・	工事は火気使用厳禁ですめること。やむを得ず溶接等が必要な場合は、十分な防火対策を行う。
・	はつり、アンカー施工等騒音の発生する作業は休館日施工とする。

打合図	株式会社 城取建築設計事務所 〒396-0026 長野県伊那市西町5863番地1 / TEL. 0265 (72) 7271	図面を作成した建築士	図面を作成した建築士	凡例 備考	工事名称 令和8年度 中川文化センター空調熱源交換工事	図面名称 配置図	SCALE [A1]・ 1 : 200 [A3]・ 1 : 400	年 月 日 R 8. 7	No. M-02
発注図		一級建築士事務所登録 長野県知事登録 (伊那)M第7Y051号	一級建築士 大臣登録第344915号						
最終図		酒井 優							

機 器 表 (改 修)

記 号	機 器 名 称	形 式	設 置 場 所	仕 様	電 気 容 量 (60HZ)				台数	備 考
					φ	V	kW	適 用		
AHP-1	空冷式 ヒートポンプチラー	モジュールチラー (ポンプレスタイプ) 冷媒：R32	屋外 機械置場	150kWモジュール(50HP) 連結3台 (2連結)	3	200			2	UWXY150GL 同等品
				冷却能力： 150KW (冷水入口12℃ 冷水出口7℃ 外気35℃DB)			45.8kW	消費電力		ブライン対応
				加熱能力： 150KW (温水入口40℃ 温水出口45℃ 外気7℃DB)			42.2kW	消費電力		
				必要加熱能力：131KW (温水入口40℃ 温水出口45℃ 外気-5℃DB)						
				冷水流量： 430 L/min 5℃差 (7-12℃)			9.44kW×4	圧縮機		
				温水流量： 376 L/min 5℃差 (40-45℃)			1.2kW×4	送風機		
				付属品： スプリング防振架台、モジュールリモコン						モジュールリモコンは
				防雪ネット、連結金具、Y型ストレーナ、逆止弁						中央監視室内組込み
				アクティブフィルター付						
				運転重量： 1415Kg						
AHP-2	再熱用チラーユニット	空冷式 ヒートポンプチラー 冷媒：R32	屋外 機械置場	冷却能力： 50kW	3	200			1	UWYA500A 同等品
				加熱能力： 50KW (温水入口40℃ 温水出口45℃ 外気7℃DB)			15.7kW	消費電力		ブライン対応
				温水流量： 144 L/min 水圧損失： 48kPa			6.80kW×2	圧縮機		
				付属品： モジュールリモコン			1.03kW×2	送風機		モジュールリモコンは
				集合水配管、Y型ストレーナ、逆止弁						中央監視室内組込み
				運転重量： 229Kg + 229kg						
				法定冷凍機：3.92 + 3.92 高压ガス保安法区分 (届出不要)						
PCH-1	冷温水循環ポンプ	ライン形	1階 機械室	能力： 65φ × 860 L/min × 15m	3	200	3.7kW	ポンプ	1	
				不凍液対応						
PRH-2	再熱用温水ポンプ	ライン形	1階 機械室	能力： 32φ × 144 L/min × 15m	3	200	0.75 kW	ポンプ	1	
				不凍液対応						
TCH-1	クッションタンク	ステンレス製 密閉式(堅型)	屋外 機械置場	容量： 0.8 m ³ (現地保温ラッキング仕上げ)					1	コンクリート基礎(建築工事)
				参考寸法： 寸 法：800φ×2,280H						
				製品重量： : 350kg (参考重量)						
				付 属 品： マンホール、標準付属品一式						
TRH-2	クッションタンク	ステンレス製 密閉式(堅型)	屋外 機械置場	容量： 0.2 m ³ (現地保温ラッキング仕上げ)					1	コンクリート基礎(既設使用)
				参考寸法： 寸 法：600φ× , H						
				製品重量： : 250kg (参考重量)						
				付 属 品： 標準付属品一式						
TEX-1	膨張タンク	密閉式、空調設備用	屋外 機械置場	容量： 143 L、最大使用受水量：32 L					1	コンクリート基礎(建築工事)
				参考寸法： 400φ×1,486H(現地保温ラッキング仕上げ)						
				最高使用圧力：0.5 MPa						
				付 属 品： 標準付属品一式						
TEX-2	膨張タンク	密閉式、空調設備用	屋外 機械置場	容量： 36 L、最大使用受水量：7.8 L					1	コンクリート基礎(既設使用)
				参考寸法： 391φ×423H (現地保温ラッキング仕上げ)						
				最高使用圧力：0.5 MPa						
				付 属 品： 標準付属品一式						
PW-1	パワースターン	受水槽内蔵型	屋外 機械置場	水 量：33 L/min × 25 m	1	100	0.4 kW	ポンプ	1	コンクリート基礎(既設使用)
				貯水量：50L						

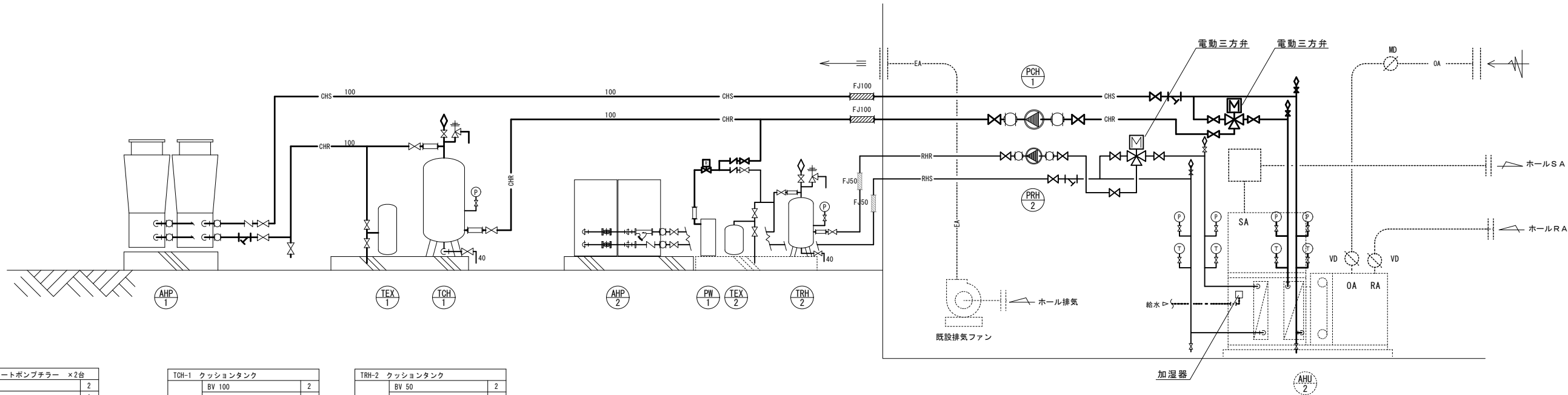
注記 1) チラー定格能力・性能は JIS B 8613:1994及びJRA4066:2014による。
2) 冬期加熱必要能力は、外気温-5℃時能力にデフロスト補正係数にて補正した能力とする。
3) 電気容量、消費電力は参考値とする。
4) 冷媒はオゾン破壊係数0のものとする。 (R32 を優先とする。)

凡 例

記 号	種 別	摘 要	記 号	種 別	摘 要
――CHS―― ――CHS――	冷温水管(往) 同上 既設	配管用炭素鋼鋼管 (白) JIS G 3452	――  ―― ――  ――	仕 切 弁 逆 止 弁	G V (仕切弁)、B V (バタフライ弁) C V
――CHR―― ――CHR――	冷温水管(還) 同上 既設	配管用炭素鋼鋼管 (白) JIS G 3452	――  ―― ――  ――	電 動 弁 装 置 可 と う 継 手	バイパス付 (Yストレーナ、G V × 3)
――RHS――	再熱温水管(往)	配管用炭素鋼鋼管 (白) JIS G 3452	――  ―― ――  ――	防 振 継 手 Y型ストレーナー	
――RHR――	再熱温水管(還)	配管用炭素鋼鋼管 (白) JIS G 3452			
――D――	ド レ ン 管	硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741 (VP)			
―― -――	給 水 管	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 JWWA K 116 (SGP-VB) ねじ接合			

既 設 機 器 表 撤去機器を示す。

記 号	機 器 名 称	形 式	設 置 場 所	仕 様	電 気 容 量 (60HZ)				台数	備 考
					φ	V	kW	適 用		
ICHU-2	ヒートポンプ式水蓄熱ユニット		屋 外	10時間蓄熱対応形、熱源機蓄熱槽分離形					1	KAH-50B(三菱電機)
				冷房 蓄熱容量 630,420 kcal (DB32℃、冷水7℃)						
				日量冷却能力 1,999,420 kcal/d						
				チラー冷却能力 136,900 kcal/h						
				暖房 蓄熱容量 155,400 kcal (DB7℃、RH85/温水45℃)						
				日量加熱能力 1,755,400 kcal/d						
				チラー加熱能力 160,000 kcal/h						
				水 張 量： 10.36 m ³						
				圧 縮 機：	3	200	37 kW	Y-△起動		
				送 風 機：			0.7 kW×5			
PCH-2	冷温水循環ポンプ	ライン形	機械室	チラーポンプ：			2.2 kW			
				冷 媒： R22 ブライン：ナイブライン(50重量%)						
				熱交換器： 空気側 プレートフィン式						
				水 側 シェルアンドチューブ式						
				チラー側 シェルアンドチューブ式						
				水蓄熱槽： FRP製						
				制 御： マイコンコントローラーによる全自動運転						
				保護装置： 圧力開閉器(高低圧)、過電流継電器、油圧開閉器						
				巻線保護サーモ、吐出ガスサーモ、凍結防止サーモ、溶栓						
				水位センサー、水厚スイッチ、ブラインレベルスイッチ						
HP-2	再熱用チラーユニット	空冷ヒートポンプ式 給湯専用形	屋 外	加熱能力： 46,200 kcal (外気DB15℃、RH85%)					1	
				温 水 量： 9,24m3/h (温水入口45℃、温水出口50℃)						
				圧 縮 機：	3	200	5.5 kW×2			
				送 風 機：			0.555kW×2			
				熱交換器： 空気側 強制空冷プレートフィンチューブ式						
				水 側 二重管式 (接水部全銅製)						
PRH-2	再熱用温水ポンプ	ライン形	機械室	能力： 32φ × 140 L/min × 10m	3	200	0.75 kW		1	
EXT-1	膨張タンク	開放式	機械室	タンク容量：25 L 513 × 484 × 227					1	
AHU-2	ユニット形空調和機 (大ホール系統)	床置堅形	機械室	風 量： 36,000m3/h (外気量 10,500m3/h)					1	DVU-550(暖冷工業)
				送 風 機： 機外静圧 50 mmAq	3	200	22 kW	Y-△起動		
				冷房能力： 207,360 kcal/h (入口空気DB28℃、WB20.7℃)						
				コイル出口空DB14℃、WB14℃)						
				冷水量： 700 L/min (冷水入口7℃、出口12℃)						
				再熱能力： 41,760 kcal/h						
				(再熱コイル出口空気DB18℃、WB17-10.3kcal/kg)						
				温水量： 140 L/min (温水入口45℃、出口40℃)						
				暖房能力(顕熱)：150,336 kcal/h						
				(入口空気DB13.8℃、出口空気28.2℃)						
				温水量： 700 L/min (温水入口45℃、出口40℃)						
				冷温水コイル： m2 6列23段 2450L×2						
				再熱コイル： m2 4列23段 2450L×2						
				加湿器： 加圧スプレー式、加湿量 68 kg/h (有効)	1	200	0.12 kW			
				エアフィルター： 自動巻取形、予備ろ材100%	3	200	0.2 kW			
				付 属 品： 混気ボックス付						



空調設備系統図

AHP-1 空冷式ヒートポンプチャラー ×2台			
冷温水	BV 65	2	×2
	CV 65	1	
	Yスト 65	1	
	防振接手 65	2	
	GV 20 (水抜き)	1	
	GV 20	1	
	自動エア抜き弁 20	1	
	圧力計 (100φ, 8"~12"付共)	2	
温度計 (100φ, 8"~12"付共)		2	
	瞬間流量計 (着脱式)	1	

TCH-1 クッションタンク			
冷温水	BV 100	2	
	FJ 100	2	
	GV 20	1	
	自動空気抜き弁 20	1	
	安全弁 25 (490kPa)	1	
	圧力計 (100φ, 8"~12"付共)	1	
	GV 40 (水抜き)	1	

TRH-2 クッションタンク			
冷温水	BV 50	2	
	FJ 50	2	
	GV 20	1	
	自動空気抜き弁 20	1	
	安全弁 25 (490kPa)	1	
	圧力計 (100φ, 8"~12"付共)	1	
	GV 40 (水抜き)	1	

TEX-1 膨張タンク			
膨張	GV 25	1	
	FJ 25	1	
	GV 20 (水抜き)	1	

TEX-2 膨張タンク			
膨張	GV 25	1	
	FJ 25	1	
	GV 20 (水抜き)	1	

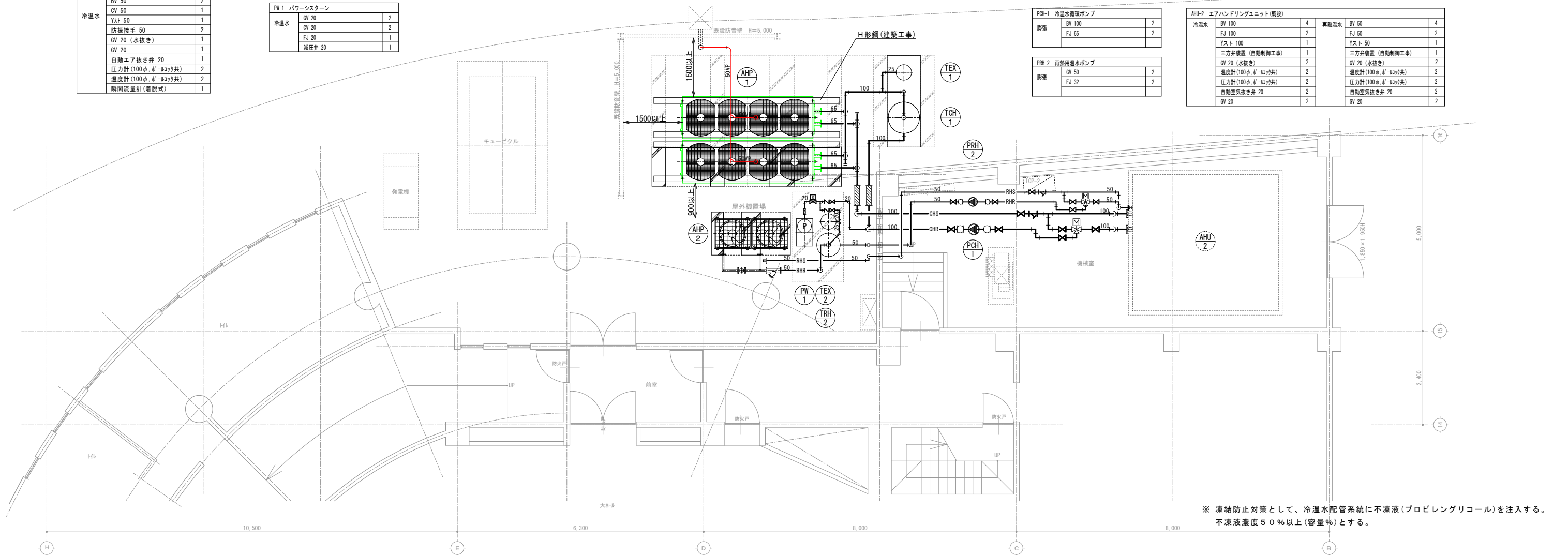
AHP-2 空冷式ヒートポンプチャラー ×1台			
冷温水	BV 50	2	
	CV 50	1	
	Yスト 50	1	
	防振接手 50	2	
	GV 20 (水抜き)	1	
	GV 20	1	
	自動エア抜き弁 20	1	
	圧力計 (100φ, 8"~12"付共)	2	
温度計 (100φ, 8"~12"付共)		2	
	瞬間流量計 (着脱式)	1	

PW-1 パワースターン			
冷温水	GV 20	2	
	CV 20	2	
	FJ 20	1	
	減圧弁 20	1	

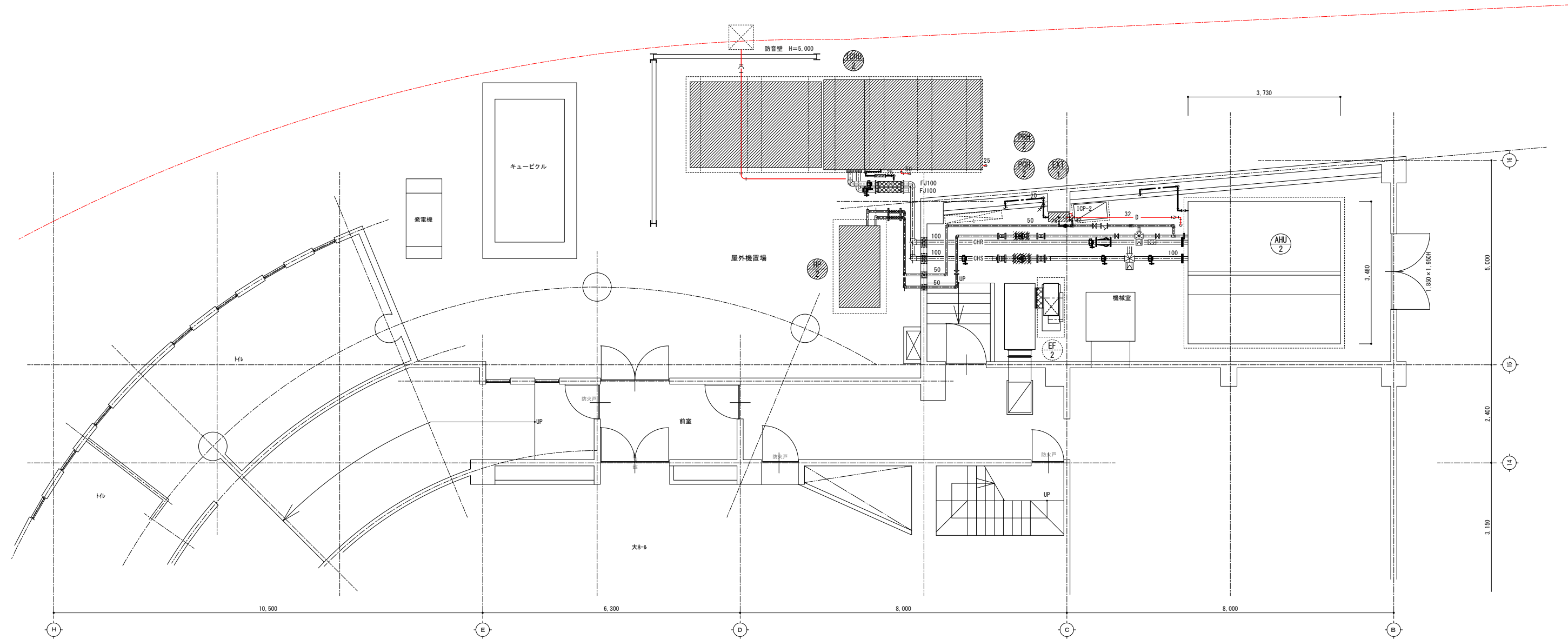
PGH-1 冷水循環ポンプ			
膨張	BV 100	2	
	FJ 65	2	

PRH-2 再熱用温水ポンプ			
膨張	GV 50	2	
	FJ 32	2	

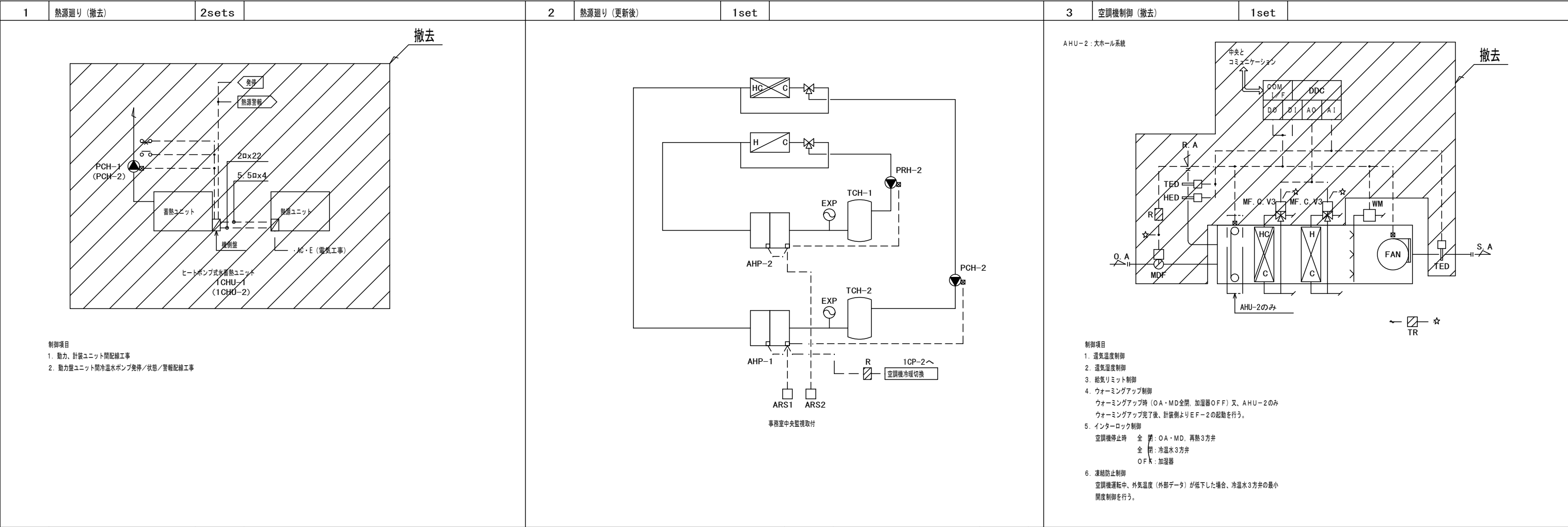
AHU-2 エアハンドリングユニット (既設)							
冷温水	BV 100	4	再熱温水	BV 50	4		
	FJ 100	2		FJ 50	2		
	Yスト 100	1		Yスト 50	1		
	三方弁装置 (自動制御工事)	1		三方弁装置 (自動制御工事)	1		
	GV 20 (水抜き)	2		GV 20 (水抜き)	2		
	温度計 (100φ, 8"~12"付共)	2		温度計 (100φ, 8"~12"付共)	2		
	圧力計 (100φ, 8"~12"付共)	2		圧力計 (100φ, 8"~12"付共)	2		
	自動空気抜き弁 20	2		自動空気抜き弁 20	2		
	GV 20	2		GV 20	2		

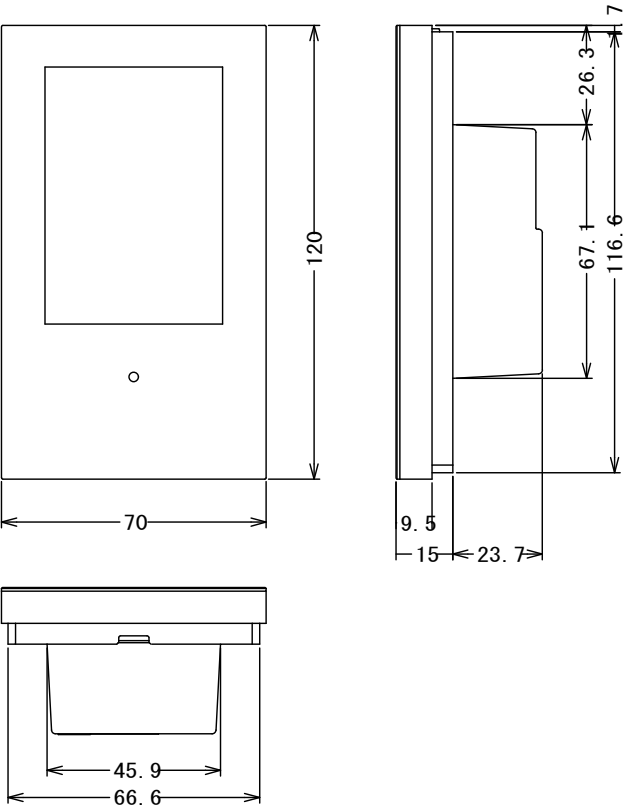


※ 凍結防止対策として、冷温水配管系統に不凍液(プロピレングリコール)を注入する。
不凍液濃度50%以上(容量%)とする。



注) 1. 屋内及び機械室内の冷温水管、再熱温水管、膨張管は全て撤去とする。
2.  は機器類の撤去を示す。





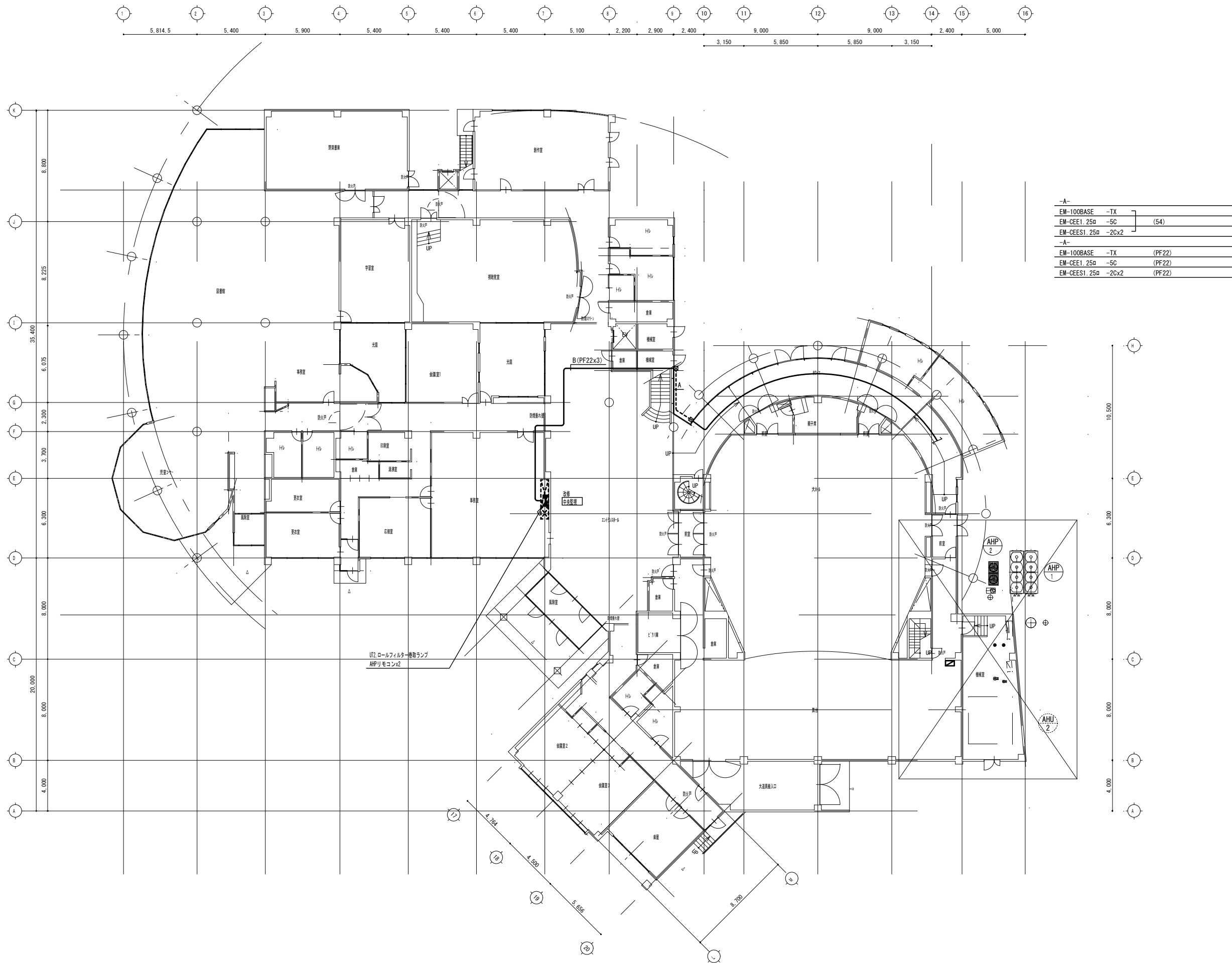
UT2	マルチエリア対応 ユーザーターミナル	DDC等とデータ通信を行い、機器の発停操作、温度・湿度表示を行う。 パスワードによる操作者制限ができる。	操作エリア数：最大8エリア 操作：液晶タッチパネル 電源：AC24V、50／60Hz、2.5VA 通信方式：BACnet MS／TP
-----	-----------------------	---	---

自動制御機器表

記号	名称	形番	備考
THED1	HTY7803T	挿入型温度センサー	
TED1	TY7803Z	挿入型温度センサー	
ME3V3	VY54/VY53	三方弁	MY53
DC	RY792D	直流電源	
M1D	MY6050A	ダンパー操作器	
OP	QY5000W	オペレーターパネル	
DDC	WJ1111	空調機コントローラー	
UT2	QJ-1201	ユーザーターミナル	

バルブ口径表							
流体 W2：水（2方弁）、W3：水（3方弁）、S：蒸気 単位 流体W2、W3：流量 [l/m]、ΔP [kPa] 流体S：流量 [kg/h]、P i、ΔP [kPa]							
系統名	流体	流量	P i	ΔP	CV	口径 (A)	備考
AHU-2 冷温水	W3	700		0.3	90.8	80	VY5410F0081
AHU-2 再熱	W3	140		0.3	18.2	40x32	VY5323A0031

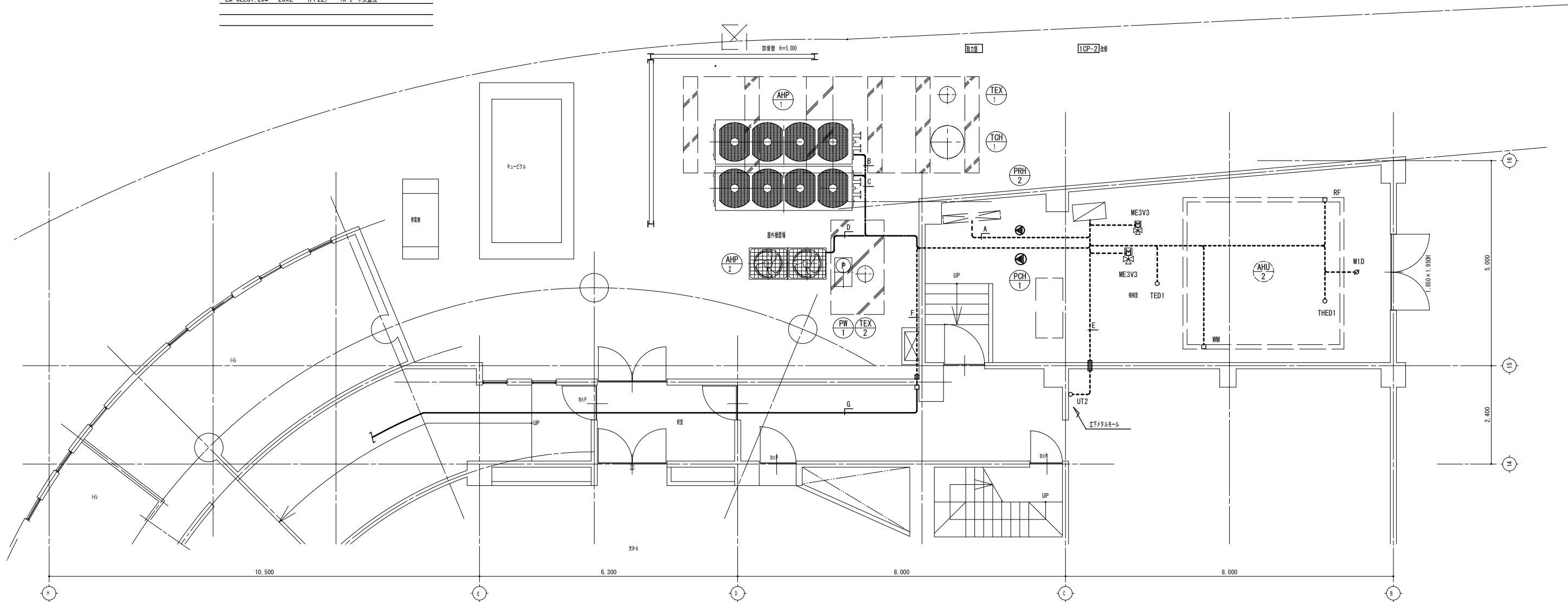
盤名	形状	参考寸法			収納系統名	備考
		W	H	D		
1CP-2	自立	1950	800	400	熱源系統 AHU-2 リモートステーション	改修



(機器伝達)

シンボル	記号	記号	備考
○	THED1	EM-CEEST. 250	-6C (25)
○	YED1	EM-CEE1. 250	-3C (19)
□	ME3V3	EM-CEE1. 250	-6C (25)
○	MTD	EM-CEE1. 250	-3C (19)
□	WM	EM-CEE1. 250	-2C (19)
□	RF	EM-CEE1. 250	-5C (25)

-A-			
EM-CE3. 50	-3C	(31)	動力屋~10P-2 電源
EM-CEE1. 250	-5C	(31)	動力屋~10P-2 インターロック
EM-CEE1. 250	-10C	(31)	動力屋~10P-2 奥扉
-B-			
EM-CEES1. 250	-2C	(FEP30)	AHP渡り
-C-			
EM-CEES1. 250	-2C	(FEP50)	AHPリモコン
EM-CEE1. 250	-5C		AHP~動力屋 ポンプインターロック
EM-CEE1. 250	-5C		AHP~10P-2 冷暖
-D-			
EM-CEES1. 250	-2C	(FEP30)	AHPリモコン
EM-CEE1. 250	-5C		AHP~動力屋 ポンプインターロック
-E-			
EM-CE3. 50	-3C	(31)	10P-1~UT盤電源
EM-100BASE	-TX	(19)	10P-1~UT盤通信
-F-			
EM-100BASE	-TX	(FEP50)	10P-2~UT2 (事務室)
EM-CEE1. 250	-5C		10P-2~中央監視
EM-CEES1. 250	-2Cx2		10P-2~中央監視
-G-			
EM-100BASE	-TX	(PF22)	10P-2~UT2 (事務室)
EM-CEE1. 250	-5C	(PF22)	10P-2~中央監視
EM-CEES1. 250	-2Cx2	(PF22)	10P-2~中央監視



打合図	株式会社 城取建築設計事務所 〒396-0026 長野県伊那市西町5863番地1 / TEL. 0265 (72) 7271	一級建築士事務所登録 長野県知事登録 (伊那)M第7Y051号	図面を作成した建築士 一級建築士 大臣登録第344915号 酒井 優	図面を作成した建築士	凡例 備考	工事名称 令和8年度 中川文化センター空調熱源交換工事	図面名称 自動制御設備 詳細図	SCALE [A1]・1:50	年月日 R8.7	No. M-09
発注図								[A3]・1:100		
最終図										

CAD FILE No. 09 自動制御詳細図

Print out - 08/01/08

TED	□	CVV	2a	-3C	(19)	(16)
HED	□	CVV	2a	-2C	(19)	(16)
		CVVS	2a	-2C	(19)	(16)
MF	□	CVV	2a	-6C	(25)	(22)
MB	□	CVV	2a	-6C	(25)	(22)
WM	□	CVV	2a	-3C	(19)	(16)
MDF	∅	CVV	2a	-3C	(19)	(16)
〇-ルーフ-	□	CVV	2a	-2C	(19)	(16)

-B-						
CV2a	-3C	(25)	1CP-1	AC-E		
CV2a	-6C	(31)	INT			
CPEVS0.9	-10P	(31)	監視			
-D-						
CVV2a	-6C	(28)	1CHU	↔ 動力盤		
CPEVS0.9	-10P	(28)	1CHU	↔ 計量盤		

